

宮崎県中学校体育大会軟式野球競技 R 5 版

特 別 規 定

【競技を行うにあたって】

- 1 1 チーム 9 名からの参加を認める。
- 2 ベンチには登録された監督・コーチ・選手以外は入れない。
- 3 外部指導者のベンチ入りは県中体連評議委員会において承認された者に限る。またベンチ入りに際しては、県中体連のプレートを付け、試合終了後は本部へ返却する。
- 4 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督は選手と同じユニホームを着用し、背番号 30 番をつける。
 - (2) コーチは選手と同じユニホームを着用し、背番号 29 番・28 番をつける。または、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ。ただし、女性は考慮する。）に選手と同一の野球帽とする。ただし、ノックを行う場合はユニホームで行う。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
 - (4) シューズについては、選手と同色のアップシューズまたはスパイクとする。
- 5 選手、監督等のユニホームの着用について
 - (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませず、ベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
 - (2) ユニホームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
 - (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。
 - ③ 選手によってミドルカットやローカット、紺や黒等が混在しないようにチームで統一する。
 - (4) 帽子は前髪が見えないように深くかぶる。

(公財)全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニホームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規定はしない。

- 6 選手の眉そり・茶髪等については、選手及び監督へ厳重に注意し指導する。指導された選手の大会参加については、当該校長に連絡の上、大会本部の判断に委ねること。
- 7 選手の背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
- 8 選手は医療を目的としたサポーター等の使用は認めるが、強化目的の使用は認めない。
- 9 選手はテーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- 10 選手はサングラスを使用しない。ただし、選手の健康上の理由及び球場の条件によって大会本部で協議し認める場合もある。
- 11 野球用の手袋は「打者」「走者」「投手以外の守備」に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。色は白・黒の単色のみとする。
- 12 レッグガード・エルボーガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
- 13 リストバンド・リストガードは使用できない。また、サポーター（手首や指を固定、保護する目的の物）の使用は医療目的に限り、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
- 14 滑り止めスプレーの使用を禁止する。
- 15 マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
- 16 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
- 17 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを設定することもある。
- 18 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニホームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。

- 19 4 回裏終了後、及び 7 回裏終了後に補助員によるグラウンド整備を行う。バッターボックスは整備後にラインを引くが、ピッチャーズマウンドには整備を入れない。また、5 回表、及び 8 回表（タイブレーク方式の 1 回表）の投手の準備投球は 3 球とする。
- 20 雨天・日没により試合続行不可能（5 イニングで試合は成立）な場合は翌日再試合を行う。中断・再試合等の判断については、選手の健康上の管理も含めながら会場責任者及び審判員の意見を十分に考慮し、県中体連事務局と専門部（大会本部）の合議で決定する。
- 21 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
- 22 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
- 23 試合開始・終了の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をするようなことはしない。
- 24 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
- 25 各チームの監督またはコーチは、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。
- 26 応援団については監督が責任をもつ。
- 27 応援団は次のことを守って応援をすること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは 3 アウト成立時とする。
 - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - (4) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (5) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (6) メガホンを使用してもよい。
 - (7) 笛（ホイッスル）は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に、笛で盛り上げることをないようにする。
 - (8) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (9) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。
- 28 参加校の保護者代表者はゴミ袋を準備し、責任をもって後片づけを行い持ち帰ること。弁当の空き箱についても業者に確認し、確実に処分すること。

【試合開始前】

- 29 監督に引率されたチームは、試合開始 1 時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し決定する。
- 30 打順表の提出は、その日の第 1 試合は試合開始予定時刻の 40 分前、第 2 試合以降は前の試合の 4 回終了時とする。ただし、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、試合開始予定時刻の 20 分前とする。監督と主将は打順表を 5 部（本部・審判・放送・相手チーム・自チーム）持参し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。
- 31 シートノックについては以下の通りとする。（秋季大会については、日没を考慮し、シートノックは行わない）
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合この限りでない。
 - (2) 試合開始 30 分前、後攻側から始め、時間は 7 分以内とする。状況によっては短縮または省略またはサイドノックに変えることもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3 名の補助員（当該校生徒）をつけて行うことができる。補助をする選手と選手以外の補助員は、必ずヘルメット着用のこととする。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
- 32 ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
- 33 相手のシートノック時に審判員または大会役員による服装・用具検査を行う（シートノックを行わない場合は、第 1 試合はオーダー交換後、第 2 試合以降はベンチの入れ替え後すぐに行う）

- 34 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないように球場内のブルペンでの投球練習を許可する。ただし、球場外にブルペンがある場合には球場外のブルペンを使用する。服装は試合用ユニホームとし、捕手は捕手の装具を全て着用する。
- 35 勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合、2 試合目の開始時刻は、1 試合目終了から 40 分後を原則とするが、天候によっては大会本部で判断することもあるのでこの限りではない。
- 36 第 1 試合前のアップ時の服装については、試合用のユニホーム（背番号付き）を着用すること。ただし、天候等で選手の健康面に配慮する場合についてはこの限りではない。

【試合中】

- 37 選手交代の申し出は、監督が行う。
- 38 ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
- 39 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 40 グラブのひもの長さは危険防止のため親指の長さ程度とする。
- 41 捕手の装具は連盟公認のマークのついたものを使用する。マスクでスロートガード一体型のものは、スロートガードをつける必要はない。
- 42 ヘルメットは SG マークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護スチロールが外れるもの、保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。
- 43 攻守交代時の代理捕手は、必ず捕手用ヘルメット・スロートガード付きマスク・プロテクター・レガースを使用する。（なお、ファウルカップの着用が望ましい。）
- 44 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。
- 45 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り、7 球以内（1 分を限度）が許される。次回からは、3 球以内とする。（ただし、主審が状況を考慮する。）
- 46 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
 - ・大会中の 1 日の投球数・・・100 球
 - ＊ 試合中に 100 球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- 47 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 48 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「47」と同じ行為であれば回数に数える。